

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295400010		
法人名	社会福祉法人 陽翔会		
事業所名	グループホームひざり (西ユニット)		
所在地	静岡県島田市金谷代官町802番16		
自己評価作成日	平成29年8月3日	評価結果市町村受理日	平成29年9月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/z/z/index.php?action_kounyo_u_detail_2016_022_kani=true&lievosvoCd=2295400010-

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年8月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人基本理念である「その人らしく～明るく健康で豊かな高齢期の生活づくり」に基づき、ご入居者様が安全に安心して生活を送って頂くことができるように、個々のニーズに合わせた支援を常に心掛けております。日々のケアの中で気付いたことについて分析し、「なぜ？」そのような行動をされるのかを考え、また、その方の「良い面」に注目し、「工夫するケア」を行なうようにしています。ご家族様においては、面会時や電話連絡等において日々の状態や現在の状況をお伝えし、情報を共有できるよう努めております。また、気楽に面会に来ていただけるよう心掛けております。日々の活動の中で、外出・買い

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「コミュニティバス停留所」グループホームひざり、が目前に配され、本人の兄妹がバスを利用して面会に訪れる」本件一つとっても地域に根差している事業所です。パートタイマー職4名がフルタイムなことから公休が月10日、希望休は3日と「働きやすい環境」に定着率も高まり、「理念共有が組織運営の要」とする法人理事の考えから、年度研修で浸透を図ると共に毎月全体研修会を開催し続け、理念に基づいたユニット計画も立案しています。また全員が在宅からの医師との馴染みの関係を崩さず、多忙を割いて管理者がおこなう通院介助では「医師、家族、本人、事業所」が顔を合わせ、サービス担当者会議さながらの場をもつことが強みです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしく～明るく健康で豊かな高齢期の生活づくり」を法人理念とし、職員一人一人が理念に基づいた介護を行なうよう取り組んでいる。	年度研修で理念と職員倫理、法人の考えを浸透させるほか、出勤時でタイムカードを打つとき必ず目に入る場所に「本日の業務の留意点」とともに理念が掲示され、毎朝意識する仕組みがあります。本年は理念に基づいてユニット計画も立てています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ドライブ・散歩・買い物・美容院・飲食店への外出や地域のボランティアの方々の積極的な受け入れを通じて地域との交流を図っている。	本人の兄妹がコミュニティバスの停留所「グループホームひざり」を利用して面会に訪れており、また脇に置かれたベンチは隣家の厚意で、常にも草取りをしてくれる等応援くださいます。来年4月に同法人の新施設発足の「地元同意」にも滞りがないことから浸透が覗えます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員様や高齢者安心センターの職員様、防災委員様と情報交換を行なう中で、地域にお住まいの認知症高齢者の相談窓口的な役割が周知されていると感じる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	必ず2ヶ月に1回、運営推進会議を行い、事業所の運営状況を報告している。	総区長、自主防、民生委員、組長と地域からの豊富な出席者を核に、行政、家族、事業所は追随するかの如く地元の熱い想いで隔月開催の運びとなり、出席簿は参加者の手書きという年の入用です。発言も多岐に渡り、議事録を届ける家族から「楽しみ」との声も入っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じて、積極的に取り組んでいる。	運営推進会議が19時～20時開催であっても、島田市長寿介護課、地域包括支援センター職員が毎回足を運んでくださり、台風の日も含み島田市からは開設以来「欠席なし」が続いています。介護相談員の訪問が毎月あり、「みみの会」から傾聴ボランティアも盛んに来訪しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時の研修は勿論ですが、毎月行なっている内部全体研修の中でも、職員倫理の向上とモラルの徹底を意識するよう取り組み、「身体拘束0宣言」を実施した介護を行なうようにしている。	「施錠はしない」としています。何らかのアクシデントがあれば施錠する場合がありますが「根拠なく鍵はかけない」という姿勢を守り、本件も大切なことの一つと注視して、法人理事が訪れて内部研修会も開かれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	必ず定期的に研修を行い、職員倫理を学ぶ機会を設ける中で虐待防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の活用が必要と思われるご利用者様、ご家族様に対して適切なアドバイスが出来るよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や改定の際等、丁寧な説明をするよう行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設け、ご記入していただけるようにしている。また、運営会議の際にご意見をいただくこともあるため、出席されていないご家族にもお伝えできるよう議事録を配布している。	事業所では「ひざり新聞」を毎月発行し、法人でも四半期に1度「ひなた」が刊行され、行事や外出の折に撮影した写真は家族に配って喜ばれています。意見箱に1通入っていたこともあり、行事への参加もあって普段から何かあれば言ってもらえています。	緩和申請をおこなっているため、外部評価のない年度は法人主導で家族アンケートがあれば、なおよいと思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員面談を行い、その中で意見や考えを聞き、反映している。全体会議においても意見を述べやすい雰囲気作りに努めている。	以前は会議での発言が少ない状況にありましたが、一人ひとりに振って意見を求めることを繰り返した成果なのか現在は活発となっています。また月1回おこなう研修会で用意する振り返りシートを通じても職員の状態を把握して、管理者が何か気が付けば個人面談もしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談時において、職員の意見や思いを聴く機会を設け、働きやすい環境となるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「基本介護チェック表」を作成し、それを基に自己評価を行い、上長が確認をしている。それぞれの長所・短所・経験を踏まえながら、内部研修の内容について検討している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的ではないが、機会のあるときには、積極的に他事業所へ訪問し情報交換をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に可能な限り、ニーズ・要望を聴き、アセスメントを通じてより良いケアサービスが提供できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に必ず家族様からもお話を聴き、入居後しばらくは積極的にこちらから状態等を提供するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様から得た情報を通じて、一人ひとりにあったサービスが提供出来るように心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の視点から生活を考えるように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時の報告、また、電話連絡を小まめに行い、関係作りが途切れないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人など、面会に来ていただければ、やすい雰囲気や環境となるように心掛けている。	夫妻で暮らす利用者には、在宅の頃の班の皆さんが5、6名の団体で訪れていて「いいね、私も入ろうかな」と冗談を言って盛り上がっています。現在夕食前にコップ半分の日本酒を飲む人もいて、飲酒・喫煙ともにOKとしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係がこじれないように、必要な際には、間に入っている。また、逆に孤立してしまわないよう心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、支援するように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族よりお聴きしたり、ご本人と接することで意向を把握するよう努めている。	職員には言えなくても面会の家族に「大福食べたいな」とこぼすことも間々あって、家族と連携して意向を実現させています。午前中は体操や歌などアクティブなメニュー、午後は塗り絵や創作と職員と一緒に何かする時間をとっていることで何気ない言葉を拾うことができています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントや、ご本人・ご家族からの聞き取りの中で把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録に残し、職員間で情報を共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケアやアセスメントで得た情報をユニット会議等で話し合い、会議計画に反映させている。	計画作成担当者となれる人が4名いますが現在担当しているのが前管理者、現管理者で、委譲できていない点は課題としつつも、段取りはつつがなくできています。また計画作成担当者である管理者が全員の通院介助に携わっている点も介護計画作成に大いに活かされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に記録をし、情報の共有がなされるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の嗜好や生活歴を鑑み、出来る限り対応するよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺の社会資源を活用していく中で、地域との関わりを大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族が希望されるかかりつけ医との医療連携が適切に行なわれ、必要な医療が滞りなく受けられるようつとめている。	在宅からの医師を全員が継続し、多忙を割いて管理者がおこなう通院介助に家族が同行することもあり、「医師、家族、本人、事業所」とでサービス担当者会議しながらの場があることが強みです。また法人で嘱託医を探したときも、管理者の信頼でつながったという恩恵も生まれています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置はないが、状態の変化や急変の際の受診時に必要な状況提供が的確に行われるよう、日々の状態把握に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院へ定期的に訪問し、病棟の看護師やソーシャルワーカー様との情報交換を密に行なうことで退院時のスムーズな受け入れができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所において、対応出来ること出来ない事を丁寧に説明し、今後の生活が困らないよう出来る限りの支援を行なうよう努めている。	「口径摂取できない、医療行為が必要…には退去」と契約時に家族に理解してもらい、現状事業所では「積極的に看取りを」とはしていません。ただし、近くに同法人の特別養護老人ホームが完成予定であることから看護師配置には期待も膨らみ、今後は方向修正もある、としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備し研修を通じて適切な対応が行なえるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルに沿って対応している。また、運営推進会議において、施設の防災設備について知っていただく機会を設けている。	近年水害事故が多発していることから情報整理をおこなっています。本年2回目実施である10月には消防署の立ち合い予定もあり、毎回「やればいい」ではなく、リーダー会議で都度協議のうえ防災計画を立案して現場総意で取り組み、訓練には休日職員も参加して周知しています。	福祉避難所として登録されていることもあり、備蓄については徐々に増やしていけたらなお良いと思います。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で特に注意し対応している。内部研修においても必ずテーマとして取り上げている。	食事中は静かなBGMが流れていましたが、早く終えてしまった男性利用者に「テレビ見たいですね」とさりげなくスイッチを入れる様子から、予めある決まりはあってもその場で本人本位に対応くださっていることが受けとめられます。	トイレに排泄用品ボックスに氏名が入っていましたが、数字やイニシャルへの変更を期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り寄り添うことで、ご本人の思いをお聴きするように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく、一人ひとりのペースに合わせて過ごしていただけるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自宅で生活されていたときの服装を出来るだけ持参していただき、その人らしい姿でいられるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る限り準備や片付けなど、入居者様と職員と一緒にこなすようにしている。	やや大きいかなと思うほどごく普通の刻み方をして(必要に応じてその後小さくする)、味付けも若者も好みそうなもので、家庭で暮らしていたらこんな感じという食事内容には好感が湧きます。「食べて欲しい」「飲んでほしい」を無理強いせずに、理由を伝えて支援していました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人様が食べやすい物、食べたい物を考慮し、その中でバランスの取れた食事になるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりにあった口腔ケアを行なっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた対応をしている。	リビングにいても共用ではなく居室にある個人のトイレまで誘導することで感染症対策にも叶っています。癖や様子で見取れた場合は誘っていますが、立位のとれない人は時間で声掛けをしています。過去には、トイレで座ることが習慣となった人のオムツが外れたケースもあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけに頼らず、牛乳やヨーグルト等を提供することで、便秘改善につとめている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の体調や身体状況に配慮しながら、その人に合わせた入浴が出来るよう支援している。	週2日を目安にしていますが希望にも副っていて、中には隔日入浴を満喫する人もいます。入浴剤の効能、香りとともに「白い濁り」「緑」「黄色」と色を替えて提供していて、利用者は「今日の色」を愉しみの一つとし、また歌をくちずさむ人もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前の生活リズムがご本人やご家族から聴き取り、尊重することで安心して休むことが出来るように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の情報提供を必ず行い、薬の内容について変更等があれば加えて情報の共有を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせた役割、気分転換が行なえるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	戸外への散歩やドライブを出来る限り行なうようにしている。ご家族の希望による外出についても支援している。	大代のジャンボ干支鑑賞と家山の桜見、日限地蔵の初詣、川根路の足湯とケーキセットを堪能することは年間の外出行事として定着し、常には日勤が2名いるとき(=週4日)を「散歩の日」として、10時半、14時半と走る時間めがけてSLの雄姿を楽しみに出ることもあります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	通常は施設で管理しているが、ご本人・ご家族から要望がある場合には、適切にご本人が管理できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居後においても今までの関係が継続できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある花や飾り物等を楽しんでいたことで心地よい環境となるよう配慮している。	西ユニットは緑や青の寒色系、東ユニットはオレンジ主体の暖色系のインテリアで、手すりまで色分けしてあります。授乳用の背もたれの大きな椅子がユニットのイメージカラーに合わせて「居場所づくり」「休み処」として置かれ、気に入って指定席にしている男性利用者も居ます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	空間を工夫し、それぞれが居心地の良い場所となすように心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、出来る限り使い慣れた、ご本人にとって馴染みのある物を少しでも持参していただけるようお願いしている。	季節違いの衣服が入っているであろう段ボールや読み物を積み上げた「暮らしぶり」が伝わる居室もあれば、拡大鏡を置いた机と椅子が配置された学究感が滲む部屋もあって、その人其々であることを視認しました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居者様一人ひとりが安全に生活していただけるにはどうしたらよいか考慮し、環境を整備するよう心掛けている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295400010		
法人名	社会福祉法人 陽翔会		
事業所名	グループホームひざり (東ユニット)		
所在地	静岡県島田市金谷代官町802番16		
自己評価作成日	平成29年8月3日	評価結果市町村受理日	平成29年9月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhiw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&jiayosoCd=2295400010-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年8月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人基本理念である「その人らしく～明るく健康で豊かな高齢期の生活づくり」に基づき、ご入居者様が安全に安心して生活を送っていただくことが出来るように個々のニーズに合わせた支援を常に心掛けております。日々のケアの中で気付いた事について分析し、「なぜ?」そのような行動をされるのかを考え、また、その方の「良い面」に注目し「工夫するケア」を行なうようにしています。ご家族様においては、面会時や電話連絡等において日々の状態や現在の状況をお伝えし、情報を共有できるように努めており

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「コミュニティバス停留所 “グループホームひざり、が目前に配され、本人の兄妹がバスを利用して面会に訪れる」本件一つとっても地域に根差している事業所です。パートタイマー職4名がフルタイムなことから公休が月10日、希望休は3日と「働きやすい環境」に定着率も高まり、「理念共有が組織運営の要」とする法人理事の考えから、年度研修で浸透を図ると共に毎月全体研修会を開催し続け、理念に基づいたユニット計画も立案しています。また全員が在宅からの医師との馴染みの関係を崩さず、多忙を割いて管理者がおこなう通院介助では「医師、家族、本人、事業所」が顔を合わせ、サービス担当者会議さながらの場をもつことが強みです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしく～明るく健康で豊かな高齢期の生活づくり」を法人理念とし、職員一人ひとりが理念に基づいた介護を行なうよう取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ドライブ・散歩・買い物・美容院・飲食店への外出や地域のボランティアの方々の積極的な受け入れを通じて地域との交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員様や高齢者安心センターの職員様、防災委員様と情報交換を行なう中で、地域にお住まいの認知症高齢者の相談窓口的な役割が周知されていると感じる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	必ず2ヶ月に1回、運営推進会議を行い、事業所の運営状況を報告している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じて、積極的に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時の研修は勿論ですが、毎月行なっている内部全体研修の中でも、職員倫理の向上とモラルの徹底を意識するよう取り組み、「身体拘束0宣言」を実施した介護を行なうようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	必ず定期的に研修を行い、職員倫理を学ぶ機会を設ける中で虐待防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の活用が必要と思われるご利用者、ご家族様に対して適切なアドバイスが出来るよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や改定の際等、丁寧な説明をするよう行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設け、ご記入していただけるようにしている。また、運営会議の際にご意見をいただくこともあるため、出席されていないご家族様にもお伝えできるよう議事録を配布している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員面談を行い、その中で意見や考えを聞き、反映している。全体会議においても意見を述べやすい雰囲気作りに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談時において、職員の意見や思いを聴く機会を設け、働きやすい環境となるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「基本介護チェック表」を作成し、それを基に事故評価を行い、上長が確認をしている。それぞれの長所・短所・経験を踏まえながら、内部研修の内容について検討している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的ではないが、機会のあるときには積極的に他事業所へ訪問し情報を交換している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に可能な限りニーズ・要望を聴き、アセスメントを通じてより良いケアサービスが提供出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に必ず、ご家族様からお話を聴き、入居後しばらくは、積極的にこちらから状態等を提供するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様から得た情報を通じて、一人ひとりにあったサービスが提供できるように心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の視点から生活を考えるように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時の報告。また、電話連絡を小まめに行い、関係作りがとぎれないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人など、面会に来ていただけてやすい雰囲気や環境となるように心掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係がこじれないように必要な際には間に入っている。また、逆に孤立してしまわないよう心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、支援するように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御家族よりお聴きしたり、ご本人と接する事で意見を把握するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントや、ご本人・ご家族からの聴き取りの中で把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録に残し、職員間で情報を共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケアやアセスメントで得た情報をユニット会議等で話し合い、介護計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に記録をし、情報の共有がなされるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の嗜好や生活歴を鑑み、出来る限り対応するよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺の社会資源を活用していく中で、地域との関わりを大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族が希望されるかかりつけ医との医療連携が適切に行なわれ、必要な医療が滞りなく受けられるよう努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置はないが、状態の変化や急変の際の受診時に必要は状態提供が的確に行われるよう、日々の状態把握に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院へ定期的に訪問し、病棟の看護師やソーシャルワーカー様との情報交換を行なうことで退院時のスムーズな受け入れができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所において、対応出来ること出来ないことを丁寧に説明し、今後の生活が困らないよう出来る限りの支援を行うよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備し研修を通じて適切な対応が行なえるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルに沿って対応している。また、運営推進会議において、施設の防災設備について知っていただく機会を設けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で特に注意し対応している。内部研修においても必ずテーマとして取り上げている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り寄り添うことで、ご本人の思いをお聴きするように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく、一人ひとりのペースに合わせ過ごしていただけるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自宅で生活されていたときのふくそうを出来るだけ持参していただき、その人らしい姿でいられるようにと努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る限り準備や片付けなど、入居者様と職員が一緒に行なうようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人様が食べやすいもの、食べたい物を考慮し、その中でバランスの取れた食事になるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりにあった口腔ケアを行なっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた対応をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけに頼らず、牛乳やヨーグルト等を提供することで便秘改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の体調や身体状況に配慮しながら、その人に合わせた入浴が出来るよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前の生活リズムをご本人やご家族様から聴き取り尊重する事で、安心して休むことが出来るように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の情報提供を必ず行い、薬の内容について変更等があれば加えて情報の共有を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせた役割、気分転換が行なえるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外への散歩やドライブを出来る限り行なうようにしている。ご家族の希望による外出についても支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	通常は施設で管理しているが、ご本人・ご家族様から要望がある場合には、適切にご本人が管理できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居後においても今までの関係が継続できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある花や飾り物等を楽しんでいただくことで心地よい環境となるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	空間を利用し、それぞれが居心地の良い場所となるように心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、出来る限り使い慣れたご本人にとって馴染みのある物を少しでも持参していただけるようお願いしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居者一人ひとりが安全に生活していただけるにはどうしたら良いか考慮し、環境を整備するよう心掛けている。		